

丸田ストアの気になる歴史と丸型ポスト

丸田ストアーは、ずいぶん古そうな建物だ。現存し今でも営まれているストアーとしては、都内でも珍しい存在なのではないか。いったい、いつ建てられたストアーなのは、案外知られていない。それもそのはず。丸田ストアー開店当初から残る店舗は、今のストアーに一軒も残っていないからだ。そんなふうに世代をまたいで、延べ20店舗が入居を繰り返してきたストアーに、最も遅く入居し、2階でアトリエ・ギャラリーを営む僕は、個人的な興味で丸田ストアーの歴史を調べはじめた。ここは、かつて慶應大小金井キャンパス（現存せず）へと続く道で、蕎麦屋、ラーメン屋、薬局、床屋と軒を連ね、1966年に誕生した「寄合百貨店（ストアー）」。開店当時は、八百屋、魚屋、肉屋、雑貨屋、駄菓子屋が入っていた。そう教えてくれたのは、開店から5年後に乾物屋として入居し、その後47年間に渡り丸田ストアーからこの町の移り変わりを見守ってきた高齊さんだ。かつて、丸田ストアーの斜向かいには5丁目公園という広場があり、こどもたちがのびのびと過ごしていたという。その頃こどもだった一人が、現在1階正面にスタンドを営むSPOONFULの麻衣さん。小さい頃から高齊さんの背中を見て育ち、大人になって同じ屋根の下で一緒に働くことになった。その後、2017年に高齊さんはお店を畳まれたが、麻衣さんが、高齊さんたちがつくってきた、昔ながらの丸田ストアーの姿を現在につないでいる。時代とともにに入る店舗は変わったけれど、一つ屋根の下で寄り合い、お客様に対面で販売する「ストアー」という文化や風景は、大切に受け継がれ変わっていない。

ところで、丸田ストアーの横にポツリと佇む丸型郵便ポスト。その根石には、昭和36（1961）年と刻まれており、記録に残るストアーの歴史より、さらに5年遡る。まだまだ、このストアーの歴史は深そうだ。（文・丸田ストアー2階とをが渡邊）

